

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502614
法人名	(株) さわやか倶楽部
事業所名	グループホームひかり
所在地 (電話番号)	北九州市小倉南区長野東町11-16 (電 話) 093-474-6300

評価機関名	(株) アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6		
訪問調査日	H19年8月29日	評価確定日	10月8日

【情報提供票より】(平成19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18 人	常勤 15人, 非常勤 4人, 常勤換算	13.4 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量 鉄骨モルタル造り
	3階建ての2階、3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円		その他の経費(月額)	(水光熱費) 24,000円
敷 金	有(200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.78 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はやし内科・胃腸科クリニック / ふちがみ歯科医院 / ますゆき皮膚科ク
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひかりは、雄大な小倉南区長野の山をのぞむ美しい景色と、心安らぐ豊かな自然環境の中に位置する。多様化する高齢者社会に対応できる事業所として、精神的に安定して、健康的で明るい生活を送ってもらえるよう、支援している。「慈愛の心・尊厳を守る」を基本理念とし、心身共に健やかに過ごされるように、全職員のスキルアップを行いながら、サービスの質の向上を図っている。また、入居者一人ひとりの思い出を大切に受けとめ、常に日々の暮らしの中心であることを考え、毎日自然な時間が保たれるように、心がけたサービスの提供を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者が小倉南区の校区まちづくり協議会の会員になり、地域の行事(文化祭・盆踊り・小学校)に参加し、交流やボランティアの輪を広げる努力をしている。入居者の方々が、直接地域の方々と接点を持つことができるように支援している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前年度の改善項目を中心とし、ミーティングなどで検討している。サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、評価で見出された課題について計画的に改善に努力している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員が、一同に揃うことが難しい状況はあるが、2ヶ月に一度、地域の代表者・家族・行政職員に集まってもらい、話し合運営推進会議を定期的に開催している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見や苦情・不満は、全て運営者が受付けをしている。自由に意見が言えるような雰囲気づくりを大切にし、問題が起きた時は、職員全員で検討し、サービスの質の向上に繋げるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小倉南区の校区のまちづくり協議会の会員になり、地域の行事(文化祭・盆踊り・小学校)などに参加し、交流やボランティアの輪を広げる努力をしている。入居者の方々が直接、地域の方々とできるだけ多くの接点を持つように支援している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしい暮らしをすることを支えるケア」の具体的なイメージを持って「慈愛の心・尊厳を守る」という理念を掲げており、現在、地域密着型サービスとしての意義を職員全体で検討中である。	○	地域密着型サービスとして何が大切であるかを事業所全体で考え、その役割を果たすサービスのあり方を具体的に表わす文言を加えることによって、地域密着型サービスとして、より分かりやすい理念となると思われる。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また職員全員が、理念を書いたカードを持ち、常に理念を意識した介護を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小倉南区の校区のまちづくり協議会の会員になり、地域の行事(文化祭・盆踊り・小学校)に参加し、交流やボランティアの輪を広げる努力をしている。入居者の方々が直接できるだけ、地域の方々と多くの接点を持つように支援している。	○	玄関に「本日の予定」や「介護相談受けます」などの看板を設置するなどの工夫によって、認知症に対する理解や地域との関係づくりをより深めることができるように思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善項目を中心とし、ミーティングなどで検討している。サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、評価で見出された課題について計画的に改善に努めている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員が一同に会することが難しい状況があるが、二ヶ月に一度地域の代表者に集まって貰い定期的に話し合いを行っている。	○	参加される運営推進委員の方の日程調整を行うことによって、多くの参加が期待できると思われる。できるだけ、たくさんの方々にも呼びかけ開催する事によって、地域との関係が深まり、活性化されると思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が、定期的に訪れる程度である。課題解決の場としての活用ができ、サービスの質の向上に繋がりたいと思っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	法人内部の研修会に参加したり、北九州市主催の研修には、出来るだけ参加したいと考えている。今後は、内部研修の充実を図りたいと考えている。	○	高齢者や認知症の方々の尊厳・人としての権利(人権問題)として取り組み、ホーム全体で研修を実施したり、外部研修に参加するなど研鑽に努めて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、預かり金制度にしている。個別で使用する物や散髪やパーマなども近所の理髪店・美容室へ行っている。出納帳やその他の報告書などは、家族の面会時や、利用料請求書と一緒に家族へ発送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情・不満は、すべて運営者が受け付けている。自由に意見が言えるような雰囲気づくりを大切にし、問題が起きた時は、職員全員で検討し、サービスの質の向上に繋げるようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員教育の成果が徐々にでてきており、ホーム立ち上げより離職者が殆どいない。入居者との馴染みの関係は構築されつつあるが、今後の離職の場合に関して十分な対応を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、性別・年齢を基準にしてはいない。入居者との年齢がより近くなることで、さらに共感できる関係が構築されていくと考え、年齢や性別などにとらわれずに積極的に採用している。面接時に充分時間をかけるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○ 人権教育・啓発活動	代表者自ら研修に積極的に参加している。内部研修時に伝達指導をしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○ 職員を育てる取り組み	研修に関する個人別年間計画が立てられている。内部・外部研修にもできるだけ参加するようにしているが、報告会や伝達講習の機会が少ないようである。	○	研修計画と研修実施報告書を一緒にファイルすることで、スタッフ全員が自由に閲覧することができ、研修を充分活用することができるように思われる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている			
14	22	○ 同業者との交流を通じた向上	地域包括支援センターの職員や小倉南区のグループホームの管理者の集まりを三ヶ月に一度行うことによって、情報交換や問題解決に繋げている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○ 馴染みながらのサービス利用	家族と共に見学に訪れていただいている。食事の時間やおやつの時間に合わせて見学を行っている。小学校区内の入居者が多いためか、なじみやすい環境としてうけとめていただいている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の生活歴を知ることや残存能力を充分発揮できるような場面を提供することで、生活にメリハリが生まれる。また他を認めることで自身の喜びにもなると考え、暮らしの中で役割を果たしていただいている。	○	アセスメントの中で入居者の生活歴や生育歴を知ることによって一人ひとりの機能回復への場面作りに繋がると考えられる。生活歴の中から見えてくる動向を、個別の援助計画の中に入れておくと、更なる自立の援助のステップとして明確になると思われる。
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。何事にも職員側の都合に合わせるのではなく、入居者の言葉や表情から意思を確認するようにしている。	○	職員全員が共通理解できる介護計画を作成することによって、その人らしい暮らしにより近づくことができると思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。	○	アセスメントを含め職員全員で「気づき」を担当者会議の検討項目にし、担当者会議を充実させることにより、ケアプランに反映させていく事が求められる。また行動分析することで予測される行動をプランに位置づけることも大切だと思われる。
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族・管理者・介護スタッフ・介護計画担当者との連絡調整を行うことによって対応されているが、本人や家族の意向の反映が薄いようである。	○	モニタリングをすることによって介護計画の見直し→ケアプラン→介護計画→実施→モニタリングと一連の流れを充実させ、その人らしい暮らしの実現に向け、チーム全体で取り組まれる事が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの近所に住む学生ボランティアなどが、入居者とも少しずつ、なじみの関係になっている。また、病院受診の付き添いや日用品の買い物など個別に対応している。訪問マッサージを利用されている方が3名いる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は密にできている。また服薬管理や副作用対応・相談も充分にできている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けて、最近、終末期の方針を決定する話し合いを行い、全体で検討している。同意書の作成までにはいたっていない。	○	介護し続けるという視点で、本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、最大の支援方法を話し合うようにし、人生の最終章を自分らしく過ごせるような支援が望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	いかなる場面でも、その人らしさを大切に言葉かけや対応を、最重要視している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度促しをしながら、介護を行っている。できるだけ希望に添うような支援をしたいと思っている。	○	心の奥深い部分にあるニーズを掘り起こすことが、希望に添った支援に繋がる。センター方式を利用することによって、一人ひとり違ったその人らしい暮らしを実現できるように努めてもらいたいと思われる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査は行わない。食べ残しから判断するようにしながら、できるだけ完食できるように支援している。食事の準備は困難であるが、下膳はできるだけ入居者が行うように促しをしている。	○	入居者が自宅で使っていた調理用具を持ってきたり、なじみのある味付けをしてもらったり、入居者が食事の準備に参加できる場面を作ることも大切だと思われる。
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、13:30～15:30で入浴を楽しんでいただけるように支援している。衛生上問題がなければ、本人の意思を尊重している。	○	入浴は一定の決められた曜日や時間ではなく、入居者の希望にそった入浴支援ができているかが問われている。その点を考慮された入浴支援が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水やりや経験を活かした手伝いを積極的に行ってもらっている。	○	アセスメントの中で、一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割や楽しみごとを見つけ、体で覚えた記憶を発揮する場面を作ることは、その人らしいケアの第一歩だと思われる。
28	63	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近隣への散歩に出かけている。行事としての外出は、空港・ショッピングなどが計画されている。	○	自宅での生活の継続として、また気分転換やストレス発散・五感の刺激として、なじみのある場所への外出の機会を増やすことも大切であると思われる。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者がホームにいる時は、全く鍵をかけないようにしている。夜間帯だけ施錠している。入居者の方達が落ち着かれているためか、一人で外出されることはあまりない。		
30	73	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を消防署の立合いで実施している。夜間訓練は実施していないが、夜間を想定した訓練は実施している。避難口は2ヶ所確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分補給は1500ccを目安に、摂取していただいている。カロリー計算は、定期的な体重測定をすることで評価している。	○	体重や残食量のチェックだけでなく、カロリー摂取量やメニューの定期的な管理を専門的に行うことも大切だと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
kizilyunn					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	共用のリビングには、椅子やテーブルが配置よくく並べ てあり、整理整頓されている。また季節感を取り入れた 自作の飾りつけなどの工夫が随所に見られる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	リビングの居心地が良いためか、昼間居室に閉じこも る方はほとんどいない。入居時、家族に提案し使い慣れ た馴染みのある家具等の持ち込みがなされ、居心地の 良い居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談し ながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			